
第1回会議の振り返り

(本会議の議論の整理)

令和4年度第2回地域ケア推進会議
令和5年1月25日

令和4年度第1回地域ケア推進会議の振り返り ①

(1) 地域包括システムの構築における「互助」について

- ▶「互助」、「担い手の充足」についての考え方として、「公助」ができないところを「互助」で補うのではなく、「共助」と「互助」でできないところを「公助」が支えるという方向で進めていくことが必要
- ▶自発的にやっていける地域は良いが、そうでない地域は先進的なところを参考にすることも必要。その地域の地域性や価値観、文化といったものに配慮しながら意図的に形成していくことが地域づくりにつながる
- ▶「地域共生社会」としての展開との関連も考慮

令和4年度第1回地域ケア推進会議の振り返り ②

(2) 情報提供、意見交換の内容

- ▶ 高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事から見られる検討課題
 - ・ 受診同行
 - ・ ペット関連
 - ・ 担い手の充足の問題
 - ・ 高齢者相談センター・ケアマネジャーが直接対応せざるを得ないケース
- ▶ 訪問型・見守りの仕組みの一部として
 - ・ シルバー人材センター
 - ・ 社協支部
 - ・ 民生委員
 - ・ 高齢者相談員
- ▶ 地域ケア会議からの報告
 - ・ 住民の組織と医療や介護の専門職との連携に関する事例
 - ・ 団地で独居 家族関係が希薄 認知機能の低下

令和4年度第1回地域ケア推進会議の振り返り ③

(3) 本会議におけるテーマについて

- ・テーマとしての絞り込み

例 「在宅で生活する一人暮らしの高齢者の日常をサポートする体制づくり」

- ・キーワード

「手遅れの手前のネットワーク」

「一人暮らしで習志野で粘る」

「習志野の75歳、80歳くらいの高齢者」

「要介護状態になる手前のところで引き続き一人でも暮らし続けられる」

習志野の80歳くらいの高齢の方が
要介護状態になる手前のところで引き続き
一人で暮らし続けられる！

1人でできていたことができなくなる

例) ゴミ出し
の問題

例) 団地の
階段

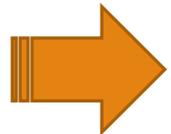
例) 高齢者
世帯

■ ■ ■

習志野の80歳くらいの高齢の方が
要介護状態になる手前のところで引き続き
一人で暮らし続けられる！

例) インフォーマルな支援が少しある

- ほとんどが公助、共助に助けられつつ、その他は営利のセクターで何とかしている
- もともと互助の仕組みがさほどない地域では、同じことが起きているということになる



一人暮らし高齢者の方の生活を思い浮かべ、実際の事例を聞きながら課題を整理
意見交換 「あったらいいな」を確認

例) リスト資源化 資源マップ・SNSなどの活用も

配食の
資源

見守りの
資源

移動支援の
資源

犬の散歩
ペットの世話の資源

●習志野市地域ケア会議推進事業 (地域ケア会議のイメージ)

